

三重県指定伝統工芸品
伊勢一木綿
I S E M O M E N



綿に戻ろうとする糸、

伊勢木綿の柔らかさの秘密

江戸時代から今も続いている伝統の布があります。その布の名前は伊勢木綿。

昔から変わらぬ製法で出来る小巾の反物は、最高の肌触りと古布のような素朴な風合いがあります。その秘密は糸（弱撚糸）にあります。強く撚りをかけずに綿（わた）に近い状態の糸を天然のでんぷんのりで固めて、昔の機械でゆっくりと織っていく。

一台の機械で一日一反（13メートル）しか織れません。出来上がった布は洗っていくうちにのりが落ちて、糸が綿（わた）に戻ろうとするので、生地がやわらかくなっていきます。

この肌触りこそが伊勢木綿の魅力なのです。

染曲

手捺染

「手の味の残る、暖かみのある仕上がり」

SOU・SOUの手ぬぐいは昭和初期から京都で続く染色工場
で職人が1版ずつ手作業で染める「手捺染」で染めら
ております。手捺染は1色ごとに型を作り、色糊をへらで刷り
込むことによって、生地に1色ずつ色を浸透させる製法。そ
の為、染料の浸透度合いを図る熟年の感が必要とされます。

※写真は八幡染色（有）

